



地域なんでも情報局

令和2年2月14日発行
長崎市社会福祉協議会
長崎市上町1番33号
☎095-828-1281

我が事・丸ごと 多世代・共生

認知症 「ぽかぽかカフェ」



認知症カフェとは、認知症のことや物忘れ等が気になり始めたご本人やご家族、地域の方が気軽に立ち寄ることができ、お茶を飲みながら認知症の相談や情報交換、交流、仲間作りができる場として、全国で5千800ヶ所以上が開設され、年々広がりを見せています。

平成27年9月から大浦地域包括支援センターが主催し、メットライフ生命長崎ビルにある長崎シビックホールで、毎月第3金曜日の14時から15時30分まで開催されています。長崎シビックホールは子育て支援の場として、世代間交流の場になっていることも特徴のようです。

今回は市内で開催されている認知症カフェ『ぽかぽかカフェ』を紹介します。

12月のカフェでは、クリスマスケーキ作りが行われ、幼児から高齢者まで仲良くケーキ作りを行いました。



おいしそう

また、この日は長崎大学の学生さんによるピアノとフルートの演奏があり、あたたかな交流のひと時を過ごしました。

長崎市大浦町から参加した今村静枝さん(85歳)は同包括支援センターからの案内で、このカフェに通って3年になるそうで、「皆さんとの話が楽しい」、「音楽が楽しい」、「子どもとの交流も楽しい」、「これからも参加したい」と話されています。

認知症地域支援推進

員の福島さんは「人間生きていけば、いつかは認知症になるものだと思います。特別なことではなく当たり前のことです。『ぽかぽかカフェ』という名前はカフェに来て下さった方が温かい気持ちになって帰ってくれたらと思っていました。今後も地域全体で認知症の方や家族を支えられたらいいと思います。」とのことでした。

市内では、地域包括支援センター単位で認知症カフェが開催されています。興味のある方はお近くの地域包括支援センターにお尋ねして、気軽にカフェを訪れてみてはいかがでしょうか？

(本村 信幸)

元気に歳をとるために!

西浦上中央支部 グラウンドゴルフ



二打目に入るかな?



長崎市社協西浦上中央支部では、昨年10月から毎月第3木曜日にグラウンドゴルフを開催しています。

たボールが自分の所に戻ってくるなど、とても難しくありません。ですが、皆さんプレイ中は真剣な中にも笑い声が絶えないとても楽しい時間を過ごしています。

支部でグラウンドゴルフを始めるきっかけとなったのは、長年続けてきた高齢者食事サービスが平成30年度で廃止することになり、三藤支部長が新たな事業を模索する中で、元気に年をとるためには、日頃の運動と併せて人と人の繋がり(交流)が新たな生きがい・目標になるのではないかと

今後、新たな参加者を呼び掛けながら、地域住民との親睦・交流を深め心身の健康保持に努めていきたいとのことでした。

いうことで、地域の方が集まりやすい住吉商店街前の中央公園で開催することになりました。

また、支部では昨年から新たに「男性料理教室」も開始され、女性スタッフの協力のもと、シニア世代の男性が元気に楽しく過ごせる活動も創出されているようです。

(原 英幸)

この公園はきれいに舗装されており、土や芝と違いクラブでボールを打つとちよつとした傾斜でも、一度打つ



【男性料理教室】



当会ホームページから過去に発行した「地域なんでも情報局」をダウンロードできます。『長崎市社協 地域なんでも情報局』で検索ください。



もちつき&クリスマス会

仁田南部支部

12月8日(日)、南が丘・南町・八景公民館にて、社協仁田南部支部主催の「もちつき&クリスマス会」が開催されました。

昨年は雨の中開催されましたが、今年は晴天に恵まれ、仁田南部地区7町の子ども会「レインボークラブ」から42名の子ども達が参加し、子ども達の元気で賑やかな声が公民館内に響き渡りました。



公民館の中では、レインボークラブの保護者が室内ゲームを進行し、外では、自治会長や民生委員さんの協力のもと、餅つき体験や餅丸めが行われました。

また、会場には、当日時間までに間に合わなかった本物のサンタクロースに代わり、プレゼントを託された地域の大人がサンタクロースに扮し、じゃんけんゲームやお菓子のプレゼントを用意されていました。参加した子ども達からは、「毎週開催してほしい!」との声も聞かれるほど、大変盛り上がりつつありました。

社協仁田南部支部の中村支部長からは、活動を継続していくために、保護者の参加も増やしていきたいとの話があり、子ども達の笑顔のために尽力される地域の大人の姿からサンタクロースの面影が感じられるようでした。

(竹内 亜梨紗)



古賀鬼火大会



古賀地区では、1月19日(日)、長崎市松原町の植木センターにて、鬼火大会が開催され、地域の方々が正月飾りや門松を焼き、無病息災を祈りました。

この大会は、古賀小学校区青少年育成協議会と古賀小学校育友会が協働した行事で、今回で6回目となります。当日は天気にも恵まれ、子どもからお年寄りまで200名を超える参加がありました。竹で作ったやぐらは高さ10mを超え、年男と年女を迎える子ども達が点火し、バチバチと鳴り響く様子に「すごい!」と歓声が湧き起こっていました。



また、牡蠣の販売や豚汁、焼きそばの提供もあり、参加された方は、お餅やお肉を持参し「これ食べませんか?」とお裾分けをし合いながら、バーベキューを楽しんでおられました。

鬼火大会を通して、古賀地区の温かさや繋がりを感ぜられる一日となりました。大会の運営に携わられたスタッフの皆様、大変お疲れ様でした。(佐々野 由佳)



令和7年度支部長研修会

長崎市社会福祉協議会支部長会は、1月31日(金)、ホテルセントヒル長崎にて、支部長研修会を開催し、社協支部の更なる活動の充実を図ることを目的とし、2つの支部から「防災」と「被災地支援」に関する取り組みの事例発表がありました。

まさに「災害にも強い銭座」に確実に近づいているという事例発表でした。

「災害にも強いまち」へ 銭座校区支部



発表者 内野 正人さん

平成26年5月に福祉のまちづくり5カ年計画の中で「災害にも強いまちづくり」を掲げて、防災への組織だった取り組みを開始された銭座校区では、一昨年より「防火・防災フェスタ」が開催されています。防災士の講演やAEDの演習を行い、自治会長などの地域のリーダーの意識付けとなつたと成果をお話されました。

橋支部では、近年相次ぐ災害発生を受け、支部役員の間で被災地の復興のために何か出来ないかと模索していたところ、地元企業の感謝祭に併せ、平成28年から被災地支援のバザーを開催し、売上金を日本赤十字社の義援金として被災地に送る支援を行っています。



発表者 古川 学さん

また、年始に銭座校区内で発生した家屋火災では、自治会会員が初期消火をして、隣合う家屋の類焼を食い止められたそうです。

この全ての善意は被災地へ届けられています。また、このバザーにより、スタッフ同士のつながりが深まり、信頼の輪が広がったとの心温まる発表がありました。